

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
インターンシップ II (医療事務) Internship II (Medical)		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(医療事務のインターンシップ)	インターンシップ I の単位取得者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
キャリア教育 I・II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
医療事務フィールド科目、ビジネス実務演習 I				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
(主) 古川貴子、小林大輔、立川聡子	本館2階	火・水・木・金の9時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
インターンシップの事前学習として、インターンシップ I を基礎とし、医療現場でのコミュニケーション能力の向上を目指し実践的に習得する。課外インターンシップは期間は5日～12日間、実施は2月を基本とし、受入れ先の事情によっては3月に実施する場合もある。受入れ先は自己開拓を基本とし、個別に開拓の支援を行いながら決定していく。事後学習としては報告書の作成および報告会での発表を実施する。				
授業の目標				
①医療機関での事務員の立場や、コミュニケーション能力を身につけることができるようにする。 ②インターンシップでの明確な目標を持ち、医療機関で実践できる能力を身につけることができるようにする。 ③社会人としてのマナー、身だしなみ、言葉づかいができるようにする。				
授業の方法				
実際のインターンシップを想定した演習や、事例研修を取入れ、インターンシップ後の報告・発表会を行う。				
学習の成果(学習成果)				
①インターンシップの意義を理解し、自身の目標に向けて実習に臨むことができる。 ②医療機関での医療事務の立ち位置を学習し、対応することができる。 ③医療機関で働くうえでどのような知識や技術が必要なのかを説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・医療機関でのインターンシップとは(古川・小林・立川)			
第2回目	医療機関での仕事の流れと、心構え(古川)			
第3回目	テーブルマナー(基礎編)(立川)			
第4回目	テーブルマナー(応用編)(立川)			
第5回目	医療機関の組織とコミュニケーションのとり方(古川)			
第6回目	チーム医療とは(組織の役割)(古川)			

第7回目	インターンシップで体験できること (古川) *レポート (提出は第10回目の授業日)	
第8回目	事例研究 ① / 書類作成 (小林)	
第9回目	事例研究 ② / 自己PR・名刺作成 (小林)	
第10回目	事例研究 ③ / 実習ノートの書き方・学内手続 (申込み・保険加入) (古川)	
第11回目	事例研究 まとめ *レポート (提出は第14回目の授業日) (古川)	
第12回目	インターンシップ事前訪問の注意点・アポイントのとり方 (古川)	
第13回目	インターンシップ終了後にすべきこと/礼状の書き方 (古川)	
第14回目	インターンシップ直前の最終確認 / 報告書の書き方 *レポート (提出は第15回目の授業日)	
第15回目	インターンシップ報告会 3月	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	15%	授業に積極的に参加し、疑問や不明点を解決する姿勢を持つ。
レポート	20%	提出期日を守り、自分の考えを論理的にまとめている。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容 (態度含む)	15%	①解りやすくまとめている②パワーポイントを活用している③聞き取りやすい言葉で発表している。
その他	50%	インターンシップ先による実習評価 (5段階) 5 = 50点、4 = 40点、3 = 30点、2 = 20点、1 = 10点
教科書と参考図書		
『ワークで学ぶ インターンシップリテラシー』西文社 (900円) 配布資料		
履修上の留意点・ルール		
無断欠席・無断遅刻は減点 (欠席4点、遅刻3点) とする。インターンシップ参加費用、その他、詳細は授業で説明。必ずインターンシップ I の単位を取得すること。 ディズニー研修を11月に予定しています。基本、インターンシップを履修している学生とし自由参加となります。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
インターンシップⅡ(観光) InternshipⅡ (Tourism)		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(観光のインターンシップ)	インターンシップⅠ単位取得者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
キャリア教育Ⅰ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
観光フィールド科目、ビジネス実務演習Ⅰ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
伊藤優子	2階	水曜日・木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
インターンシップの事前学習として、インターンシップⅠを基礎とし、観光業界の現場でのコミュニケーション能力の向上を目指し実践的に習得する。課外インターンシップの期間は4日～3週間程度、実施は2月を基本とし、受け入れ先の事情によっては3月に実施する場合もある。受け入れ先は、県内および県外の観光関係企業で、本人の希望を確認しながら、調整して決定していく。事後学習としては報告書の作成および報告会での発表を実施する。				
授業の目標				
①観光現場でのサービススタッフの立場や、コミュニケーション能力を身につけることができるようにする。 ②インターンシップでの明確な目標をもち、観光ガンバで実践できる能力を身につけることができるようにする。 ③社会人としてのマナー、身だしなみ、言葉づかいができるようにする。				
授業の方法				
接客サービス検定の過去問題のプリントを活用して、対人技能、実務技能、サービススタッフの資質について講義を進めていく。インターンシップ後の報告・発表会を行う。				
学習の成果(学習成果)				
①インターンシップの意義を理解し、自身の目標に向けて実習に臨むことができる。 ②観光現場での立ち位置を学習しりかいすることができる。 ③観光現場で働くうえでどのような知識や技術が必要なのかを説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・観光現場でのインターンシップとは			
第2回目	観光現場での仕事の流れと心構え			
第3回目	サービススタッフが必要とされる要件			
第4回目	サービスの専門知識			
第5回目	商業用語、経済用語			
第6回目	社会常識、時事問題			

第7回目	対人技能・接遇知識	
第8回目	話し方、身だしなみ、態度	
第9回目	インターンシップで体験できること	
第10回目	事例研究 書類作成・自己PR	
第11回目	事例研究 事前訪問の注意点・アポイントのとり方	
第12回目	事例研究 終了後にすべきこと・礼状の書き方	
第13回目	ホテル業界・観光業界で求められる人材	
第14回目	インターンシップ直前の最終確認	
第15回目	インターンシップ報告会 3月	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	15%	授業に集中し、ノートをとる。不明なことがあれば積極的に質問する。自分の意見を述べるなどが評価の対象となっている。
レポート	20%	提出期日を守り、自分の考えを論理的にまとめている。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	15%	パワーポイントを活用しわかりやすくまとめている。わかりやすく、聞きとりやすい言葉で発表している。
その他	50%	インターンシップ先による実習評価（5段階）5=50点、4=40点、3=30点、2=20点、1=10点
教科書と参考図書		
『ワークで学ぶ インターンシップリテラシー』西文社 （900円） 配布資料		
履修上の留意点・ルール		
遅刻厳禁。私語は慎むこと。授業途中で無断で退出禁止。携帯電話の使用 y 禁止。飲食厳禁。 インターンシップ参加費用、その他、詳細は授業で説明。必ずインターンシップ I の単位を取得すること。 ディズニー研修を11月に予定しています。基本、インターンシップを履修している学生とし自由参加となります。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
インターンシップⅡ(実務系) Internship		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択 ( )		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
キャリア教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、 ビジネス実務演習Ⅰ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ビジネス実務演習Ⅰ必修				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
立川 聡子	本館2F	金曜4時限		授業中に指示します
授業の概要				
インターンシップⅠの継続として、インターンシップ実習での事例をもとに学習する。実習先の決定、事前訪問では個別指導を行いながら事前準備を行う。インターンシップの期間は5～12日間、実施は2月を基本とするが、課外授業、受入先の事情によっては3月に実施する場合もある。受入先は自己開拓を基本とし、個別に開拓の支援を行いながら決定していく。インターンシップ後は、事後学習として報告書の作成および報告会での発表を実施する。				
授業の目標				
①自身の職業観について説明できるようにする。 ②なぜインターンシップを行うのか、自身の目的意識を明確にし、説明できるようにする。 ③自身のインターンシップの目的に合う受入先を決定し、意義のある実習とすることができるようにする。				
授業の方法				
講義、マナー指導、報告、発表、そして事例研究を取り入れ、実際のインターンシップを想像できるように演習を行う。個別の対応を行う。				
学習の成果(学習成果)				
授業で学んだ社会人として必要な心構えを実践を通じた新たな学びを経験し、今後の自身の進路やキャリアデザインどのように役立てることができるか、他者にわかりやすく説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバス等について)スーツ着用、メイク道具持参、事前訪問の目的と注意点①、身だしなみ、スーツの着こなし			
第2回目	スーツ着用、メイク道具持参、事前訪問の目的と注意点②、ヘアスタイル、メイク、訪問のマナー			
第3回目	スーツ着用、メイク道具持参、提出書類の種類、証明写真の撮影			
第4回目	提出書類の準備、受入先の研究(経営理念、アクセス、業界) レポート①志望動機(受入先決定後)			
第5回目	先輩の体験から学ぶ②-1 事例研究「失敗」① 事例-1.2 レポート②事前訪問報告、訪問後随時。			
第6回目	先輩の体験から学ぶ②-2 事例研究「失敗」② 事例-3.4.5			

第7回目	先輩の体験から学ぶ②-3 事例研究「失敗」③ 事例-6.7
第8回目	先輩の体験から学ぶ②-4 事例研究「ほめられたこと」
第9回目	先輩の体験から学ぶ②-5 事例研究「困ったこと」①事例-1.2.3
第10回目	先輩の体験から学ぶ②-6 事例研究「困ったこと」②事例-4.5.6
第11回目	先輩の体験から学ぶ②-7 事例研究 まとめ / 申込書の作成
第12回目	実習ノートの書き方 / 実習中に気を付けること / 学内手続き(申込み、保険加入)
第13回目	インターンシップ終了後にすべきこと / 礼状の書き方 / 学内手続き〆切
第14回目	インターンシップ直前最終確認 / 報告書の作成
第15回目	インターンシップ報告会 3月 レポート③:実習報告、報告会当日 *2年生報告会を次年度9月に実施予定

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	課題・提出物の準備、欠席・遅刻届、身だしなみ、挨拶、マナー、報告・連絡・相談の 実践ができ、指導されたことは速やかに改善することができる。
レポート	30%	①要件を充足している。②自分の考えを述べている。③論理的にまとめている。④設問 に的確に解答している。 各10点
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容 (態度含む)		
その他	50%	インターンシップ先による実習評価(5段階) 5=50点、4=40点、 3=30点、 2=20点、 1=10点

教科書と参考図書

『ワークで学ぶ インターンシップリテラシー』西文社、¥900-
---------------------------------

履修上の留意点・ルール

欠席、遅刻は減点(欠席4点、遅刻3点)とする。インターンシップは、以下の諸条件を満たされている場合に、学内「インターンシップ協議会」の判定によって許可される。条件①前半・後半各15回中、欠席1回、または遅刻2回まで。欠席届、遅刻届を提出のこと。②課題は期限内にすべて提出済。③指摘は謙虚に受け止め、改善できる等々。\*費用、その他、詳細は授業で説明。  
ディズニー研修を11月に予定しています。基本、インターンシップを履修している学生とし自由参加となります。